

病虫害発生予察情報

令和6年6月28日

病虫害発生予察情報（飛騨地域） 7月予報

今年6月21日と遅く梅雨入りしましたが、今後は雨の日が多く病気の発生が増加する傾向となります。梅雨明けは平年と大きく変わらない予報ですが、梅雨末期は大雨となることが多く、ほ場の排水対策や病気を予防する管理、適正な肥培管理も重要です。病虫害対策は、ほ場をよく観察し、早期発見・早期防除をこころがけましょう。

- 【水 稲】** BLASTAMによる葉いもち感染好適日の出現が6月中旬に下呂市でありました。また昨年を除く過去3年連続で飛騨地域の広範囲にいもち病が発生しました。コシヒカリやひとめぼれ等、いもち病に弱い品種は注意が必要です。
- 【果 樹】** チャバネアオカメムシのフェロモントラップ及び予察灯への誘殺が5月中旬から継続的にあります。果樹園での発生に注意しましょう。
もものせん孔細菌病は発生が少ない傾向にあり、りんごの病気の発生も少ないですが、気温が高い予報です。害虫の発生に注意しましょう。
- 【野 菜】** トマトでは、灰色かび病が増加する要因となる葉先枯れが発生しています。枯れた小葉ごと花ガラと合わせて除去し、晴れ間に適切な薬剤を散布しましょう。オオタバコガが継続的に発生しています。4mm ネットを常に張りましょう。
トマトキバガの侵入が確認されました。裏面を参考に発生に注意しましょう。

○主な病虫害の発生状況及び今後の予測（7月） ↓ 防除時期

病虫害名 発生量	発生消長の一例と防除時期の目安									防除上の注意事項等		
	7月						8月					
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬			
水 稲	葉いもち	← 本田発生量 →						← (穂いもち) →			・発生が心配される場合は、箱施薬剤の効果が切れる前に粒剤を散布する。(7月中旬頃) ・葉いもちが発生したら、粒剤ではなく治療効果のある茎葉散布剤を使用する。	
	発生量:並											
	紋枯病											・幼穂形成期頃までは、発病株が増加(水平進展)し、その後、上位葉へ進展(垂直進展)する。 ・高温・多湿条件で病斑は拡大する。 ・薬剤散布の効果は幼穂形成期が高い。
	発生量:並	水平進展 ↓ 垂直進展 ← 本田発生量 →										
	セジロウカ	初飛来 ↓ 本田発生量 ↓										
果 樹	発生量:やや多	初飛来 ↓ 本田発生量 ↓									・飛騨地域では、6月下旬に初飛来が確認された。 ・8月になると全域で発生が認められるが、被害が発生するのは稀なので、防除は斑点米カメムシ類と合わせて同時期に行う。	
	斑点米カメムシ類	畦畔で増加 ↓ 本田へ侵入 ↓ 本田発生量 ↓										
	発生量:やや多	畦畔で増加 ↓ 本田へ侵入 ↓ 本田発生量 ↓										
	果樹カメムシ類	予察灯誘殺量 ↓ 定期防除 ← →										
果 樹	発生量:多	予察灯誘殺量 ↓ 定期防除 ← →									・夜温も高くなり、徐々に果樹園への飛来が多くなる。 ・特に蒸し暑い夜は突発的に多数飛来する場合があるので注意し、適期に防除する。 ・7月前半はクサギよりチャバネの誘殺が多い。	
	ナシヒメシクイ	フェロモントラップ誘殺量 ↓ 第2世代幼虫発生盛期 ↓										
	発生量:やや多	フェロモントラップ誘殺量 ↓ 第2世代幼虫発生盛期 ↓										
果 樹	りんご斑点落葉病	ほ場発生量 ↓ 定期防除 ← →									・6月から葉に病徴が見られるようになり、梅雨時期～夏期の高温多雨条件で急増する。 ・発病適温は、葉が20～30℃、果実が15～25℃。	
	発生量:並	ほ場発生量 ↓ 定期防除 ← →										

病害虫名 発生量	発生消長の一例と防除時期の目安									防除上の注意事項等	
	7月						8月				
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬		
ホウレンソウ	べと病	発生量: やや少									・高標高地域や冷涼な年以外は、7月の発生はほぼないが、春に発生があった地域は注意する。
	タネバエ	発生量: 少									
トマト	灰色かび病	発生量: 並									・管理(花ガラ・葉先枯れ除去)遅れが病気の蔓延につながる。 ・降雨時間が長いほど発病好適条件(高湿度)が続くので長雨予報時は予防防除に努める。
	すすかび病	発生量: 並									
	アザミウマ類	発生量: やや少									・白ぶくれ症状は、開花期に飛来した成虫が、子房に産卵し、その部分が果実の肥大とともにふくれて生じる。 ・花粉を餌とし、花が咲く雑草に多く寄生しているため、草刈り後等は、ハウス内への飛び込みに注意する。
	タバコガ類	発生量: 並									
アブラムシ類	発生量: やや少									・高温乾燥が続くと多発する。防虫ネットやシルバーマルチ等で飛来を抑制する。 ・夏場の増殖率は高いので侵入を見たら直ちに防除する。 ・薬剤抵抗性がつきやすいのでローテーション防除する。	

トマトキバガについて

病害虫防除所では、中山間農業研究所において「トマトキバガ」のフェロモントラップによる発生調査を実施しています。今年度は6月20日と6月27日に各1頭の誘殺がありました。すでに圃場に侵入している可能性があります。

本害虫はトマトに小さく穴を開けて入り込む害虫のため、注意が必要です。被害部位を見つけたら速やかに除去し深く埋めるなどして死滅させると共に、防除を実施して下さい。本害虫の被害様相や生態および防除薬剤など詳細については令和6年5月24日発表の特殊報を参考にして下さい。

果実の小さな穿孔害や、葉を薄皮状に食害するハモグリバエより大きな幼虫を見かけたら、農業普及課または病害虫防除所までご連絡ください。



トマトキバガ幼虫と葉の食痕

6~8月は「農薬危害防止期間」です

農薬の適正な使用、保管管理に努めましょう。農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて、飛散しないよう十分に配慮してください。

東海地方1か月予報(6/29~7/28) 名古屋地方气象台 6月27日発表

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。(トップページQRコード→)

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468

TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706



トップページ



BLASTAM
(いちもち病情報)